

▼北陸

【富山】かんじき履いて新春花見
昔の人が豊かな想像力で伝えた「夢見草」。

夢のように儂くも散る花、別称サクラは、平成以降、数々の新種が発見されています。

なかでも富山県中央植物園の調査研究で明らかになった県下のサクラは現在13品種。特徴は県独自の二季咲き性、菊咲き性、コシノヒガン系の品種群で、特殊なものが多いとのこと。

当園の桜博士・大原隆明さんは「特に菊咲き性は全国では30数品種、富山県と石川県でその約半数を占める特殊な品種群です」と話す。

さて、屋外活動が難しい北陸の冬場、歩こう会は新春の二季咲きサクラを見に、有志で当園へ出かけました。



コシノフユザクラ

年末から居座った寒気団も正月には緩み、1月8日は晴れ、暮らしの知恵が詰まったかんじきを持って入園しましたが、雪面はキツと締まっております、履かずじまいでした。

お目当てのコシノフユザクラ(写真)とコシノフクカサネは期待通り薄紅色の花をつけ、紅冬至(こうとうじ)のウメも数輪咲くなど楽しい散策でした。

【石川】コロナ禍での活動

事務局長・吉田 直樹(MRO)

石川ではコロナ禍の中、会員間のコミュニケーションを保てるよう、いくつかの試みを実施しています。

同好会では、グループ・メールを運用しています。俳句同好会ではこのグループ・メールを使い、「まん延防止」期間にメール句会を何度か実施しました。写真同好会も同様に、対面の例会に代えて利用したことがあります。ブログでは、写真同好会の会員を中心に、それぞれが事務局に記事を送り、一日一記事を掲載しています。毎朝新しい記事が掲載されるので、好評を得て

います。

ホームページも開設しています。今後の予定やお知らせのほかにアーカイブの機能を持たせ、近年の写真と俳句の同好会例会作品をすべて閲覧できるようにしてあります。当クラブの会報バックナンバーも保存しています。

最近では、グループラインも運営し、会員同士でのチャットが楽しめます。

このように、石川ではコロナ禍にあってもITで会員同士の交流を図っています。

【福井】北陸民放クラブ三県の

理事長連絡会開く

理事長・小川 忍(ftb)

コロナ禍で実質活動に制約があった各民放クラブの動きも、昨年末ごろから徐々に動き始めたようです。そんな中、富山・石川・福井の北陸三県の各クラブの理事長連絡会が、福井の担当で久しぶりに開催されました。

1月12日、北陸新幹線延長工事が続いているJR福井駅構内にある「八兆屋」に、富山の森

元理事長、石川の永山徹理事長、そして福井の伊藤貴夫会長、私、理事長の小川が集い、各地区の情勢報告や今後の互いの交流などについて協議しました。

今後のコロナの状況を見極めながら、まずは4月に予定しているそれぞれの総会には従来通り互いに代表者を送りあうこと、秋口あたりにも共同イベントを開催する方向で今後、詳細を詰めていくことになりました。ちなみに総会日程は、福井が4月20日、石川が21日、富山が22日でしたが、全て中止となりました。

【福井】前号用 秋の俳句

人に酔ひ踊りに酔うて峽更くる

村田 浩(FM福井)

わが顔に似る軒先の吊るし柿

伊藤 貴夫(FBC)

夫と踊る車椅子レク秋うらら

大島 幸子(FBC)

たまゆらの命尊し花蓮

幸谷 登紀子(FBC)

紅ければ紅いほどよし紅葉峪

中村 保之(FBC)

名刹の床に映れる紅葉かな

前田 悦子(FTB)

草陰に果てぬ輪唱秋の宵

鰐淵 千加江(FTB)